

## 家庭科教員養成のための家庭経営学の授業構成の一考察

Structure of Home Economics Classes for its Training Teachers

小橋 和子

キーワード：家庭科教員養成、家庭経営学、学習指導要領、家庭科教科書、資質・能力、課題解決学習

### 目的

家庭経営学は、家庭生活を社会とのつながりの中で捉え、社会を構築する視点でよりよい生活を創造するために生活の諸課題と向き合い、その解決を追究する学問で、家政学に位置付けられているが、捉え方が困難な学問である。原田（1970）は「家政学は一般に、食物学、被服学、住居学、児童学、家族関係学、家庭経営学から成立しているものと考えられている。その中の『家庭経営学』はその範囲及び内容のもっとも不明瞭なものであって（以下略）」<sup>1)</sup>と述べている。これは、家庭経営学の研究対象が生活の経営にあり、内容論よりも方法論ベースの学問で、他の家政学の内容を包括する特性を持っているところに起因すると考えられる。

本学においては、中学校・高等学校の家庭科教員の免許取得を目指す学生は、必修として「家庭経営学概論」を学んでいる。学生達も家庭経営学は学びの追究が難しい学問として捉えていることが、授業後に質問する様子から窺える。

生活における課題の解決を追究する家庭経営学は、家庭科の授業の軸となる課題を解決する学習に繋がるものであり、中学校・高等学校の家庭科教員を目指す学生にとって、授業づくりの基盤形成としての位置付けができる可能性を孕んでいる。

課題を解決する学習は、現在の学校教育現場の様々な学習場面で実践を目指しているものである。現行の

学習指導要領（2017～2019年文部科学省告示）では、学校教育の各教科で育む力を資質・能力とし、その資質・能力は、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」で構成されるとしている。そして、それらは、各教科の見方・考え方ははたらかせて課題を解決する学習を通して育まれると捉えている。主体的で対話的な深い学びの実現のために、課題を解決する学習の必要性を強調している。

家庭科は、教科の本質として、生活を見つめ、問題を見つけ、課題を設定し、その課題の解決を図る学びを軸とした教科であり、今の学校教育が求めている方向性は家庭科教育がこれまで目指してきたものである。

家庭経営学は、社会につながる生活の諸課題の解決を目指して、生活の経営のあり方を追究するところに学問の本質があり、家庭科の学びや現在の学校教育が重要視しているものと重なり合うものである。

これらのことを踏まえ、学校教育の「家庭科」の学習を踏まえ、生活の課題を解決することを目指した家庭科の授業力につながる「家庭経営学概論」の授業構成のあり方を検討する。

### 方法

家庭経営学と家庭科の内容を比較分析し、家庭科教員養成のための「家庭経営学概論」の授業構成のあり方を検討する。

家庭経営学の内容は、「家庭経営学概論」で使用している教科書<sup>2)</sup>を分析する。家庭科の内容は、文部科学省の『高等学校学習指導要領解説 家庭編』<sup>3) 4)</sup>とその内容を具現化した高等学校文部科学省検定教科書『家庭総合』<sup>5) 6)</sup>を分析する。具体的な方法を以下に示す。

### 1. 内容構成表の作成

家庭経営学の内容「家庭経営学概論」の授業で使用している教科書である『生活経営学』の内容構成表を作成する。見出し、内容量(頁数)を整理し、内容に関わるキーワードの抽出をする。

『高等学校学習指導要領解説 家庭編』の内容 文部科学省が2018年に告示した『高等学校学習指導要領解説 家庭編』の家庭総合の内容構成表を作成する。全文を整理し、内容に関わるキーワードを抽出する。

文部科学省検定教科書高等学校家庭科『家庭総合』の内容 高等学校の家庭科は家庭基礎と家庭総合のいずれかを履修することとなっているが、本学の授業で利用している『家庭総合』の教科書の内容構成表を作成する。見出し、内容量(頁数)を整理し、内容に関わるキーワードを抽出する。

家庭経営学と家庭科の内容構成表を作成するための分析資料を図1にまとめた。

|   |
|---|
| <p><b>【家庭経営学】</b></p> <p>○『生活経営学』赤星礼子(2002)九州大学出版会</p> <p><b>【家庭科】</b></p> <p>○『高等学校学習指導要領解説 家庭編』教育図書(2018)文部科学省</p> <p>○高等学校文部科学省検定教科書『家庭総合』(2023)東京書籍</p> |
|---|

図1 家庭経営学と家庭科の内容分析資料

### 2. 内容構成表の比較分析

内容構成表による分析は、以下に示す5つの内容に分けて行うこととする。

現行の学習指導要領における家庭科の学習のまとめりは、「人の一生と家族・家庭及び福祉」(以後「家族・

家庭生活」と記す)、「衣食住の生活の科学と文化」(以後「衣食住の生活」と記す)、「持続可能な消費生活・環境」(以後「消費生活・環境」と記す)の大きく3つにまとめられており、その中の「衣食住の生活」はさらに、「衣生活の科学と文化」(以後「衣生活」と記す)、「食生活の科学と文化」(以後「食生活」と記す)、「住生活の科学と文化」(以後「住生活」と記す)で成り立っている。5つの学習のまとめりで整理することが、比較分析により有効で、家庭経営学と家庭科の内容構成の特徴をより明確にすることができると捉えた。

### 3. 比較分析結果の考察内容構成表の比較分析

得られた結果から、家庭経営学と家庭科の内容構成を各々図示し、考察を加え、家庭科教員養成につながる「家庭経営学概論」の授業構成の在り方を図示し、検討を加えてまとめる。

## 結 果

### 1. 家族・家庭生活の内容について

家庭経営学概論の教科書では、家族・家庭生活の内容は全体の50%という多くのページを割き、家族・家庭生活に関わる生活の経営が、家庭経営に大きな影響を与えるものとして位置付けられている。

家族・家庭生活の問題を少子化・高齢化の視点で捉え、そこから派生する様々な問題と社会とのつながりの中で分析している。そして、それらを家庭や社会の課題として、行政の施策やNPO法人の取り組みなどから、どのような解決の可能性があるのか、それに関わる個人の生活のあり方はどうあるべきなのかを追究する内容となっている。(表1-1)

生活には多面性があり、生涯を見通した生活設計が必要であること、家族と家庭の生活はそこから生み出されるものであること、それを踏まえた上で、就職、結婚、出産、育児と関わることなど、様々なライフスタイルが認められる現代であるが、選択の難しさの理解が深まる内容構成となっている。

また、ジェンダーについても深くアプローチし、国際化の中で、日本はタテマエとホンネの構造から脱却

表1-1 「家庭経営学概論」の教科書「家族・家庭生活」の内容構成

| 「家庭経営学概論」の教科書の内容    |                                     |  | 頁数                               | 合計                                 | 内容に関する主なキーワード                                       |                                   |
|---------------------|-------------------------------------|--|----------------------------------|------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 1章 「生活」を考える         | 1節 生活経営の考え方                         | 1 生活経営とは                               | 2                                |                                    | システムズアプローチ、人的サブシステム、マネジメント                          |                                   |
|                     |                                     | 2 生活の多面性                               | 1                                |                                    | 生活構造論、再生産理論、外枠要因、媒介的要因、内部的要因                        |                                   |
|                     | 2節 家族構成の変化                          | 3 家族の機能と役割                             | 2                                |                                    | 固有機能、基礎機能、副次機能、教育機能                                 |                                   |
|                     |                                     | 1 家族の小規模・単純化                           | 1                                |                                    | 生まれた家族、生み家族、生体構成、単独世帯                               |                                   |
|                     |                                     | 2 少子高齢化                                | 2                                |                                    | 少子化、平均出生子ども数、晩婚化、非婚化                                |                                   |
|                     | 3節 ライフスタイルの変化                       | 3 家庭生活の多様化                             | 2                                |                                    | 心の豊かさ、ゆとりのある生活、家族の絆                                 |                                   |
|                     |                                     | 1 共働き増加                                | 1                                |                                    | 共働き、専業主婦、専業主夫、非就業者、役割期待                             |                                   |
|                     | 4節 情報化・国際化と生活                       | 2 家事労働の変化                              | 2                                |                                    | 半均束的、家事労働、労作強度、経済的交換価値                              |                                   |
|                     |                                     | 1 生活情報の活用                              | 2                                |                                    | 情報化社会、ICT（情報通信技術）、情報格差（デジタルデバイド）                    |                                   |
|                     | 2章 生活時間と人の一生                        | 1節 生活時間の管理                             | 2 生活情報に生きる                       | 2                                  | 17  | ビッグバン、金融の規制緩和、ハーク条約、ペイオフ          |
| 1 生活時間の意味           |                                     |  | 2                                |                                    | シャドー・ワーク、アンペイド・ワーク、無償労働                             |                                   |
| 2節 私たちの生活時間         |                                     | 2 生活時間調査                               | 2                                |                                    | 社会生活基本調査、必要行動・自由行動・1次活動、2次活動、3次活動                   |                                   |
|                     |                                     | 1 1日の生活時間配分                            | 1                                |                                    | 就業環境、残業労働、短時間労働者、人口の高齢化                             |                                   |
| 3節 ライフサイクルとライフコース   |                                     | 2 生活時間に見る性差                            | 1                                |                                    | 家事行為率、行為者率  |                                   |
|                     |                                     | 3 生活時間とワーク・ライフ・バランス                    | 2                                |                                    | ワーク・ライフ・バランス、無償労働、アンペイド・ワーク、OC法                     |                                   |
| 4節 ワーク・ライフ・バランス     |                                     | 1 生涯の生活時間管理                            | 2                                |                                    | ライフ・プランニング、ファミリー・ライフ・サイクル                           |                                   |
|                     |                                     | 2 ライフコースという考え方                         | 2                                |                                    | 生活周期、同期同出生集団（コホート）、結婚コホート                           |                                   |
| 3章 長寿社会を生きて         |                                     | 1節 高齢社会を生きて                            | 2 ワーク・ライフ・バランスとはとれているか           | 2                                  | 16  | ライフ・スタイル、年齢別就業率、定年、臨時雇            |
|                     |                                     |  | 1 人口の高齢化                         | 2                                  |   | 性別役割分業観、男女雇用機会均等法、ポジティブ・アクション     |
|                     | 2節 高齢者の生活実態                         | 2 平均寿命の伸長                              | 2                                |                                    | 超高齢社会、高齢化率、地域格差、公的生活保障、社会保障制度                       |                                   |
|                     |                                     | 3 高齢者の世帯構成                             | 2                                |                                    | 長寿化、簡易生命表、有配偶率、無配偶率、生涯未婚率                           |                                   |
|                     | 3節 高齢者の生活福祉                         | 2 同居率、老親同居率、高齢期の生活モデル、コホート効果           | 2                                |                                    | QOL、経済的安定、健康保障的安定、情緒的安定、自己実現への欲求                    |                                   |
|                     |                                     | 3 高齢者の介護                               | 2                                |                                    | 近居・遠居、アセスメント（評価）、修正拡大家族                             |                                   |
|                     | 4節 高齢者の社会参加                         | 2 単身世帯、三世同居、家族介護、高齢者虐待                 | 2                                |                                    | 高齢者生活支援のネットワーク、国民皆保険、皆年金                            |                                   |
|                     |                                     | 1 高齢者の福祉制度                             | 2                                |                                    | 介護保険法、家族介護、ヨーロッパ型高齢者生活福祉                            |                                   |
|                     | 4章 現代の結婚                            | 1節 配偶者選択・結婚                            | 2 要介護者の生活支援                      | 2                                  |   | 社会参加、生きがい、社会的活動、ボランティア活動          |
|                     |                                     |  | 1 配偶者の地域貢献                       | 2                                  | 19  | 災害弱者、地域貢献、地域社会の構成員                |
| 2節 伴侶性の形成           |                                     | 1 現代の結婚の意味                             | 1                                |                                    | 未婚化、晩婚化、非婚化、経済的協力、情緒的協力、結婚志向                        |                                   |
|                     |                                     | 2 結婚動向                                 | 3                                |                                    | 婚姻件数、婚姻適齢期、平均初婚年齢、生涯未婚率                             |                                   |
| 3節 夫婦関係の破綻          |                                     | 3 配偶者選択                                | 2                                |                                    | 結婚観、男女のミスマッチ、性別役割分業観                                |                                   |
|                     |                                     | 1 結婚幸福度                                | 2                                |                                    | 結婚幸福度調査、伴侶性、第二の新婚期、空の巣                              |                                   |
| 4節 これからの結婚・離婚       |                                     | 2 夫婦間の意思決定                             | 1                                |                                    | 男女共同参画社会基本法、権威、ブラッド、ウルフ                             |                                   |
|                     |                                     | 1 離婚率の増加                               | 2                                |                                    | 家庭内離婚、熟年離婚、離婚率、結婚経過年数                               |                                   |
| 5章 日本の子ども           |                                     | 1節 子どもと家族の現状                           | 2 離婚の方法                          | 2                                  |   | 協議離婚、調停離婚、審判離婚、裁判離婚               |
|                     |                                     |  | 3 離婚理由                           | 2                                  |   | 調停前置主義、紛争未済、家庭裁判所、申し立て動機          |
|                     | 2節 育児における課題                         | 1 農村上の離婚理由                             | 1                                |                                    | 明治民法、有責主義、破綻主義、婚姻関係、民法770条                          |                                   |
|                     |                                     | 2 夫婦別姓                                 | 2                                |                                    | 夫婦の氏、選択的夫婦別姓、国際婦人年、夫婦別氏制、婚姻開始年齢                     |                                   |
|                     | 3節 子育て世帯の現状                         | 3 結婚・事実婚                               | 1                                | 19                                 | 事実婚、内縁関係、非婚生子女（婚外子）、第一子出産時年齢                        |                                   |
|                     |                                     | 1 父親不在、二重役割、核家族化、都市化、保護愛情、生育の場         | 1                                |                                    | 父親不在、二重役割、核家族化、都市化、保護愛情、生育の場                        |                                   |
|                     | 4節 日本の子どもの現在と未来                     | 2 子ども数の減少                              | 1                                |                                    | 核家族世帯、合計特殊出生率、育児支援、保育サービス                           |                                   |
|                     |                                     | 1 子ども・子育て観                             | 1                                |                                    | 出生力動向基礎調査、希望子ども数、国際意識調査                             |                                   |
|                     | 13章 地域・コミュニティ                       | 1節 個人と地域、社会とかわり                        | 2 理想の子ども数と予定子ども数                 | 1                                  |   | 高齢出産、経済的負担、心理的負担、身体的負担            |
|                     |                                     |  | 3 女性の仕事と育児                       | 2                                  |   | 21世紀出生児観測調査、出産後離婚率、家事育児時間         |
| 2節 地域における新たなつながりの諸相 |                                     | 4 子ども・子育てに関する施策                        | 1                                |                                    | 少子化社会対策大綱、新待機児童ゼロ作戦、子ども・子育てビジョン                     |                                   |
|                     |                                     | 1 インターネットによる個人と個人とのつながり                | 2                                |                                    | 課税調査、教育費、養育費、私立、国公立、生活費                             |                                   |
| 3節 地域社会の実現          |                                     | 2 競争社会の子どもたち                           | 1                                |                                    | 社会経済状況、高度文化的生活、経済優先主義                               |                                   |
|                     |                                     | 2 ITによるつながり                            | 2                                |                                    | 学力向上、備後備、学力競争、格差社会、ゆとりをもった授業                        |                                   |
| 4節 国際政策的な連携へ        |                                     | 3 子どもたちの問題行動                           | 2                                |                                    | いじめ、不登校、学力重視、学力競争、無気力感                              |                                   |
|                     |                                     | 1 フェアトレード                              | 2                                |                                    | 家庭の教育力、社会問題化、子どもの貧困、相対的貧困                           |                                   |
| 14章 世界のなかの日本の生活     |                                     | 1節 女性の地位                               | 5 未来の子どもたち                       | 1                                  | 16  | 社会、企業、地域、学校、育児手当、育児休業、保育施設、制度     |
|                     |                                     |  | 2 地域における新たなつながりの諸相               | 2                                  |   | ソーシャルワーキングサービス、ソーシャルリーディングサービス    |
|                     | 2節 ジェンダーの平等                         | 2 地域の特性に応じた支え合い                        | 1                                |                                    | 子育てと高齢者の見守り、生活課題、過疎化、高齢化                            |                                   |
|                     |                                     | 3 生活支援による地域再生                          | 2                                |                                    | 弱者弱者応援マニユアル、非営利団体、コミュニケーションの活性化、販売促進                |                                   |
|                     | 3節 各国のジェンダー問題                       | 2 市民連携の規制緩和による農漁の表現                    | 2                                |                                    | 九州福祉大学、アグリワーズM研究会、観光農園、直売所                          |                                   |
|                     |                                     | 1 生活の協働、コミュニティ、地域社会、生活経営               | 1                                |                                    | 複合衛生法、農協療法、会員制民泊、農村文化体験、交流事業、                       |                                   |
|                     | 4節 国際化と生活                           | 3 都市と農村の交流による双方の成果                     | 2                                |                                    | 農村コミュニティ、自然・人・生活文化という資源、研究会、大学のフィールド、地域再生、都市生活者との交流 |                                   |
|                     |                                     | 2 アジア初のフェアトレードシティ熊本                    | 2                                |                                    | フェアトレード市場、認知度、フェアトレード商品                             |                                   |
|                     | 15章 世界のなかの日本の生活                     | 1節 女性の地位                               | 2 フェアトレードタウン・ジャパン、地域活性化、地域社会への浸透 | 1                                  | 17  | フェアトレードタウン・ジャパン、地域活性化、地域社会への浸透    |
|                     |                                     |  | 1 日本のHDI・GHIの順位                  | 2                                  |   | HDI、GHI、ジェンダー不平等指数、交通開発計画、人間開発報告書 |
| 2節 ジェンダーの平等         |                                     | 2 GGIの格差な低位とその対応                       | 1                                |                                    | GGI、賃金同等性、コーター・プロジェクト、列国議会同盟                        |                                   |
|                     |                                     | 3 各分野の女性比率                             | 2                                |                                    | 女性比率、男女共同参画、ポジティブ・アクション、NPO法人                       |                                   |
| 3節 各国のジェンダー問題       |                                     | 1 ジェンダーの平等とは                           | 1                                |                                    | 人口開発会議、国連環境計画（UNEP）、男女共同参画センター                      |                                   |
|                     |                                     | 2 ジェンダー平等へのあゆみ                         | 1                                |                                    | ジェンダー平等意識、女性と女性市民の権利宣言、フェミニズム運動、ウーマン・リブ運動           |                                   |
| 4節 国際化と生活           |                                     | 3 性別役割分業意識の変化                          | 1                                |                                    | ジェンダーバイアス、両性の平等、夫は外・妻は家庭、スウェーデン、フランス・イギリスとの意識の違い    |                                   |
|                     |                                     | 1 物理的強制力、政治的強制力、宗教的強制力、心理的強制力、ジェンダー不平等 | 1                                |                                    | DV行為、暴力学習、複雑性PTSD、DV防止法、保護命令                        |                                   |
| 5節 地域市民としての生活者の貢献   |                                     | 2 ドメスティック・バイオレンス(DV)                   | 1                                |                                    | 性差別、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、改正男女雇用機会均等法            |                                   |
|                     |                                     | 3 セクシュアル・ハラスメント                        | 1                                |                                    | ストーカー規制法、報告書、セカンド・レイプ、レイプシミュレーション                   |                                   |
| 6節 国際化と生活           | 4 ストーカーとレイプ                         | 1                                      |                                  | 人身売買禁止令、強制的・商業的性的搾取、改正人身売買罪        |   |                                   |
|                     | 5 売買音と人身売買                          | 1                                      |                                  | ポルネとタテマエ、規範の準拠状況、状況倫理、ジェンダーギャップ指数  |   |                                   |
| 7節 国際化と生活           | 2 マス・メディアの発展とグローバル化                 | 1                                      |                                  | 文化的差異、グローバルゼーション、ジェンダー平等           |   |                                   |
|                     | 3 国際的移動と国籍・国際線組問題                   | 1                                      |                                  | 人の交流、国際的移動、国籍、親権問題紛争解決の国際ルール、ハーグ条約 |   |                                   |
| 8節 国際化と生活           | 1 人と人を繋ぐ精神的絆、ボランティア活動、共同性、地域市民、環境問題 | 1                                      | 17                               | 人と人を繋ぐ精神的絆、ボランティア活動、共同性、地域市民、環境問題  |   |                                   |
|                     |                                     |  | 121                              | 121                                |   |                                   |

表1-2 高等学校学習指導要項(平成30年告示)解説 家庭編(家庭総合) 「家族・家庭生活」の内容構成

| 学習内容項目              | 育成を目指す資質・能力   | 生徒の学習内容に関わる主なキーワード   |
|---------------------|---|--|
| A<br>人の一生と家族・家庭及び地域 | (1)人の一生と家族・家庭及び地域<br>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。<br>(7) 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。<br>(4) 生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理ができること。                               | 生涯発達、ライフステージ、ライフイベント、ライフスタイル、ワーク・ライフ・バランス、生活設計、生活資源  |
|                     | (2)青年期の自立家族・家庭及び社会<br>ア 次のような知識を身に付けること。<br>(7) 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めること。<br>(4) 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めること。 | イ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察すること。  |
|                     | (3)子供との関わりと保育・福祉<br>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。<br>(7) 乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けること。<br>(4) 子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めること。  | イ 子供を産み育てることの意義や保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子供との関わり方を工夫すること。   |
|                     | (4)高齢者との関わりと福祉<br>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。<br>(7) 高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けること。<br>(4) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。  | イ 高齢者の自立支援を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫すること。  |
|                     | (5)共生社会と福祉<br>ア 次のような知識を身に付けること。<br>(7) 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。<br>(4) 家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めること。   | イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫すること。   |
|                     |   | 乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期、意思決定、男女の社会的役割、固定的な性別役割、分業意識、男女の平等と共生、家庭の機能の歴史的变化、婚姻・親子・夫婦・相対に関する法律、社会制度、社会福祉、ボランティア活動、地域福祉、経済や産業構造、社会の影響を大きく受ける家族、家庭の特徴や機能<br>身体の発育や運動機能、言語、認知、情緒、社会性、心身の発達の方向性・順序性と個人差、基本的な生活習慣、児童文化材、自発的な遊び、愛着の形成、社会の支援、子供の発達段階や個人差に応じた関わり、少子化、都市化、人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下、自然と触れ合う経験不足、育児不安、子供の貧困や虐待、保育所不足、待機児童、児童福祉、認定こども園、児童養育、児童福祉法<br>尊厳、自立、身体的特徴、心理的特徴、加齢、成熟期、介護予防、認知症、安全、自己決定、主体的参加、車椅子、介助、ボディメカニズム、福祉用具、社会参加、健康問題、生計維持、福祉施設、老老介護、高齢者虐待、高齢者福祉、老人福祉法、介護保険法、地域包括ケア、ユニバーサルデザイン<br>福祉、社会的支援、意思決定能力、社会的制度、社会福祉の基本的な概念、ノーマライゼーション、福祉の発展、制度、行政サービス、社会的支援・システム、バリアフリー、ボランティア活動、NPO法人(特定非営利活動法人) |

できていないところにも触れている。

全体を通して、人生100年と言われる長い年月をどのようによりよく生きるのか、生活の質を追求する現代の生き方は、学び無くしては成立し難いということが理解できる。

高等学校家庭科の教科書では、家族・家庭生活の内容は全体の34%を占めている。内容としては、自分のライフスタイルについて考え、自らの意思決定により、生活設計をしていくところから学習が始まる構成となっている。そして、家族の歴史や機能を学び、自分の将来を見通しながら、どのようなスタイルで家族との生活を創り上げていくのかを考えるようになっている。また、子どもや高齢者に接するために必要な知識や技能についても学ぶ内容となっている。また、生活と福祉について、理解を深め、超高齢社会とどのように向き合うかについて、しっかりと考えることができるような構成となっている。(表1-2、表1-3)

双方とも、人生全体を社会との関わりの中で捉えて家族・家庭生活と向き合い、自らライフプランを確立し、自立してライフコースを歩むことが必要であるという視点は共通しており、多くの課題を上げている。

## 2. 衣生活の生活(衣生活)の内容について

衣生活においては、「家庭経営学概論」の教科書では、全体の7%を占めるにとどまっていた。内容的には、衣生活の動向と衣生活における課題を産業の視点から分析し、消費者に提供するサービスや商品の開発などについて紹介をし、家庭での衣生活の現状を分析している。また、伝統的な衣生活の文化についても触れ、具体的なものを取り上げ、その文化の継承や創造の必要性についても強調している。(表2-1)

高等学校家庭科の教科書では、被服の役割や機能、布を原料である繊維の種類と特徴、被服の表示と手入れなどについて学習するようになっている。また、実践的・体験的学習活動として被服製作に取り組み、基本的な製作のための技術を身に付けたり、衣生活をより深く見つけることができるような学習場面が設定してある。また、これからの衣生活として、大量生産と大量消費の限界、再資源化など、環境に配慮した衣生活を目指す必要がある時代であるということを理解する内容構成となっている。衣生活の内容は、全体の18%を占めている。家庭科の授業で、衣生活の学習において、製作実習は欠かせないものである。教科書には、具体的な製作品やその作り方、製作に必要な用具

表1-3 高等学校家庭科（家庭総合）の教科書「家族・家庭生活」の内容構成

| 高等学校家庭科（家庭総合）の教科書の内容 |                 | 頁数   | 合計                    | 内容に関わる主なキーワード   |
|----------------------|-----------------|--|-----------------------|---|
| 第1編                  | 1 人生を展望する       | ① 人生を生涯を通して発達する<br>② 青年期の課題  | 4<br>2                | 発達段階（ライフステージ）、乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期、ライフイベント  |
|                      | 2 目標を持って生きる     | ① 人生は意思決定の連続<br>② 未来予想図を描く<br>TRY 家庭科の学習を通して生活設計しよう                    | 2<br>1<br>2           | 自己概念、生活の自立、精神的自立、社会的自立、経済的自立、性的自立<br>意思決定、視点、人的資源、対人的資源、経済的資源、空間的資源、時間的資源<br>生活設計   |
| 第2編                  | 1 人生をつくる        | ① 「人生百年」時代を生きる<br>② 一人暮らし<br>③ パートナーと生きる<br>④ 子どもと暮らす・親を支える            | 2<br>1<br>2<br>1      | 平均寿命、合計特殊出生率、少子化、高齢化、人口減少社会<br>平均初婚年齢、ドメスティックバイオレンス、DV防止法   |
|                      | 2 家族・家庭を見つめる    | ① 自分のライフスタイルを選ぶ<br>② 家族・家庭をどう捉えるか<br>③ 社会の中の家族・家庭<br>④ 家族と法律           | 1<br>2<br>2<br>1      | ライフスタイル、パートナーシップ、法律婚、事実婚、親子関係、暮らし方、LGBT、SOGI<br>家族、家庭、住民基本台帳、世帯、単独世帯、親族のみの世帯、核家族世帯、拡大家族世帯、日親族を含む世帯、国勢調査   |
|                      | 3 これからの家庭生活と社会  | ① 家庭生活を担う<br>② 家庭生活と地域・福祉<br>③ ホームプロジェクト<br>④ 私のキャリア                   | 5<br>1<br>1<br>1      | 職業・家事労働、有償・無償労働、性別役割分業、女子差別撤廃条約、男女雇用均等法、男女共同参画社会基本法、ワーク・ライフ・バランス  |
|                      | 4 命を育む          | ① 次世代の育成<br>② 青年期の責任<br>③ 命の誕生   | 2<br>1<br>1           | リプロダクティブ・ライツ、人工妊娠中絶、早産、低出生率児<br>受精、着床、産褥期、マタニティ・ブルー、産後うつ  |
|                      | 5 子どもを育つ力を知る    | ① 子どもの育つ力<br>② 生まれつき持っている能力<br>③ 身体の発達<br>④ 心の発達                       | 1<br>1<br>1<br>2      | 生理的早産、乳幼児期<br>乳児期、新生児期、生理的体重減少、生理的責任、近く、原始反射<br>粗大運動、微細運動<br>愛着行動、愛着（アタッチメント）、喃語、指さし、一語文、自己主張、第1反抗期   |
| 第3編                  | 1 子どもと関わる       | ① 子どもと遊び<br>② 子どもとの発達と保育<br>③ 子どもとの生活と保育<br>TRY 子どもと離れ合おう              | 4<br>2<br>4<br>4      | 遊びの三つの相、ひとり遊び、平行遊び、集団遊び、児童文化財、伝承遊び<br>子育て、基本的生活習慣、社会的生活習慣<br>乳汁、母乳栄養、人工栄養、離乳食、幼児食、間食、外気浴、予防接種   |
|                      | 2 これからの保育環境     | ① 現代の課題<br>② 地域や社会の関わり<br>③ 子どもと権利と福祉<br>④ ホームプロジェクト<br>⑤ 私のキャリア       | 2<br>2<br>1<br>1<br>1 | 母性神話、3歳児神話、育児不安、母子保健法、労働基準法、育児・介護休業法、児童福祉法<br>家族保育、集団保育、保育所、認定こども園、幼稚園、特設児童、地域型保育、子ども・子育て支援新制度、次世代育成支援対策推進法<br>児童の権利に関する条約、児童労働、子どもの貧困、児童虐待、児童虐待防止法、児童相談所、児童福祉、児童憲章、児童福祉法、社会的養護 |
|                      | 3 超高齢・大衆長寿社会の到来 | ① 超高齢社会の現状<br>② ライフステージとしての高齢期   | 2<br>3                | 出生率、死亡率、少産少死、高齢者、高齢者人口割合、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会、前期高齢者、後期高齢者<br>大衆長寿社会   |
|                      | 4 高齢期の心身の特徴     | ① 老化と成熟<br>② 高齢期の健康と自立<br>③ 高齢期の生きがいと生活課題                              | 1<br>1<br>4           | 老化、認知症、成熟<br>エイジズム、健康寿命、介護予防、リハビリテーション<br>フレイル/フラッグ、アゲイブ/エイジアップ、シニア/シニア、高齢者雇用、公的年金制度、国民年金、厚生年金、遺族年金、障害年金、遺族年金、個人年金、企業年金、介護保険制度、要介護者、介護支援専門員、介護キーパ計画、介護予防給付、地域包括ケア、地域包括支援センター    |
|                      | 5 高齢者の自立を支える    | ① 高齢者の自立を支える<br>TRY 介助をしよう   | 2<br>2                | 介護疲れ、介護施設   |
| 第4編                  | 1 これからの超高齢社会    | ① 介助をめぐる問題<br>② 高齢者と共に地域をつくる<br>③ ホームプロジェクト<br>④ 私のキャリア                | 1<br>1<br>1<br>1      | 老老介護、認知介護、高齢者虐待、ヤングケアラー、高齢者のための交通整理、高齢者虐待防止法<br>社会的自立、孤立し、バリアフリー新法  |
|                      | 2 私たちの生活と福祉     | ① リスクに備える<br>② 福祉の捉え方の変化<br>③ 社会保障とは                                   | 1<br>1<br>1           | リスク、自助、互助、共助、公助、共生社会<br>生活の質、福祉、共生、当事者のニーズとサービス、（参加型社会保障（ホジティブウェルフェア））<br>社会保障、社会保険、社会福祉、医療保険、雇用保険、労働や災害補償保険、生活保護制度   |
|                      | 3 共に生きる         | ① 税金や社会保険料を払う意味<br>② 共生社会を目指して<br>③ 家庭生活と地域と福祉<br>TRY 誰もが暮らしやすい社会を目指して | 1<br>1<br>3<br>2      | 多様性、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、社会的包摂、環境共生<br>地域福祉、ボランティア活動  |
|                      | 4 生活をデザインする     | ① 生活設計をする<br>② 自立し共に生きるために<br>③ これからの社会を創造する                           | 2<br>2<br>2           | キャリア  |
|                      | 5               | TRY 地域防災意識を高めよう  | 2                     | 12  |
| 第5編                  | 11              | 104  | 104                   |   |

の取り扱いなどを示しており、多くのページを割いている。また、洗濯、アイロン、保管などの被服の手入れや管理に関する内容についても、具体的な方法を示し、生活実践に役立つ構成となっている。（表2-2、表2-3）

双方とも被服の機能や衣生活の課題などについて触れているが、家庭経営学概論の教科書では、産業の視点から衣現代社会の衣生活を見つめており、高等学校の家庭科の教科書では、各自の衣生活を見つめ、被服製作を通して、衣生活を営む力を身に付け、衣生活の在り方を社会とのつながりも視野に入れて考える内容

となっている。

### 3. 衣食住の生活（食生活）の内容について

食生活については、「家庭経営学概論」の教科書では、食生活の動向と社会における問題について言及している。特に、食の安全性については、行政の様々な取り組みについて理解を深める構成となっている。また、食の安全性や食品ロスなどは、社会全体で向き合うべき大きな課題として取り上げ、解決の方向性を見出すことの難しさを示唆する内容となっている。社会的に問題となっている食の課題を資料などから分析

し、その解決に対応する行政の施策や企業の取り組みなどを視野に入れながら、環境配慮型食生活の必要性を強調している。(表3-1)

高等学校家庭科の学習は、食事の役割と食品の栄養素を理解し、栄養バランスを考えた食事計画や調理の基礎を学び、調理実習で、調理の技能を習得する構成となっている。日本や世界の食文化についても学び、生活への生かし方について考える場面も設定している。そして、それらの学習を通して、食生活の課題と

どのように向き合っていくべきかを考える力を身に付けることを目指した内容となっている。また、食生活と社会との関わりも目を向け、食の安全性、食糧自給率、食品ロスなどの問題が日々の生活と深く結び付いていることの理解を深める構成となっている。各自の食生活と社会のつながりを意識しながら、自分の食生活を創るための学びの実現を目指した構成となっている。

家庭経営学の教科書では、食生活は、家族・家庭生

表2-1 「家庭経営学概論」の教科書「衣食住の生活(衣生活)」の内容構成

| 「家庭経営学概論」の教科書の内容 |                               | 頁数              | 合計 | 内容に関わる主なキーワード                               |
|------------------|-------------------------------|-----------------|----|---|
| 10章 衣生活を考える      | 1節 衣生活と健康                     | 1 流行のファッションの問題点 | 2  | サイレントラングージ、ビジュアルラングージ、ハイファッションブランド          |
|                  |                               | 2 健康的な衣生活とは     | 1  | 物理的快適性、感覚的快適性、社会的快適性、心理的快適性、流行ファッション        |
|                  |                               | 3 繊維の歴史         | 3  | 天然繊維、化学繊維、混用(混紡・交織)、合成繊維、再生繊維               |
|                  | 2節 衣生活の管理                     | 1 ワードロープの管理     | 2  | ヒートテック、紫外線遮蔽(UVカット)衣服、静電気防止衣服               |
|                  |                               | 2 機能性衣服(素材)     | 2  | ファイバーリサイクル、湿式洗濯(ウエットクリーニング)、乾式洗濯(ドライクリーニング) |
|                  |                               | 3 選択と保管         | 2  | 高価格帯アパレルブランド、クールビズ、ウォームビズ                   |
|                  | 3節 衣生活関連産業の実状                 | 1 アパレル業界        | 1  | 低価格競争、料金の二重化、ハイテクリテイメンテナンス                  |
|                  |                               | 2 クリーニング業界      | 2  | 3R、リフォーム、リユース、リサイクル、リメイク、ローブランド、リセッションニスタ   |
|                  |                               | 3 リフォーム業界       | 2  |   |
|                  | 4節 生活の質を重視した衣生活のための提案 一伝統的衣生活 | 1 日本の歴史に学ぶ      | 1  | 唐衣裳袋、十二単、重色目、服飾文化、半纏、久留米餅、伊予餅、備後餅           |
|                  |                               | 2 九州・沖縄の伝統的染織品  | 2  | 18 染色工芸、芭蕉布、献上陣多織、紵冠、越後山形織、伝統的染色文化          |
|                  |                               | 3               | 18 | 18  |

表2-2 高等学校学習指導要項(平成30年告示)解説 家庭編(家庭総合)「衣食住の生活(衣生活)」の内容構成

| 学習内容項目                   | 育成を目指す資質・能力   | 生徒の学習内容に関わる主なキーワード  |
|--------------------------|---|---|
| 8 衣食住の生活<br>(2)衣生活の科学と文化 | <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 衣生活をとり巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めること。</p> <p>(4) ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <p>(7) 被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の立に必要な技能を身に付けること。</p> | <p>被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生、被服管理、被服機能、着装、伝統文化、被服産業のグローバル化、気候や風土、生活習慣や宗教、規範、歴史的背景、既製の生産と流通、循環型社会、体型、生理特性、運動特性、社会的立場、嗜好、着心地、環境条件、保健衛生上の機能、生活活動上の機能、社会生活上の機能、社会的慣習、健康と安全、被服の入手と活用、資源問題、エネルギー問題、環境保全、再利用、廃棄方法、健康被害、付加価値の備った被服、クールビズ、ウォームビズ、中古衣料、産業廃、繊維製品廃棄物、リサイクル、循環型被服計画、天然繊維、化学繊維、平面構成、立体構成、ファッション、ものづくり、ランドリー、ドライクリーニング、サイズ、デザイン、手仕事、環境負荷</p> |

表2-3 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書「衣食住の生活(衣生活)」の内容構成

| 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書の内容 |             | 頁数           | 合計         | 内容に関わる主なキーワード                              |
|----------------------|-------------|--------------|------------|--|
| 生活の自立<br>第7章         | 1 被服の役割を考える | ① 高校生と衣生活    | 1          |  |
|                      |             | ② 着るとは       | 1          | 被服の起源、保健衛生的機能、社会的機能                        |
|                      |             | ③ 被服の保健衛生的機能 | 2          | 被服機能、熱伝導率、信州区改素材、皮膚障害                      |
|                      |             | ④ 被服の社会的機能   | 2          | 被服デザインの基本要素(形態、素材の質感、色)                    |
|                      | 2 被服を入手する   | ① 被服の入手      | 1          | 被服計画                                       |
|                      |             | ② 被服と表示      | 1          | 組成表示、取り扱い表示                                |
|                      |             | ③ 被服の材料      | 3          | 繊維、天然繊維、化学繊維、再生繊維、合成繊維、紡績、三軒組織、横メリヤス、縦メリヤス |
|                      |             | ④ 被服材料の性能    | 1          |  |
|                      |             | ⑤ 被服材料の性能の改善 | 2          | 高機能繊維、機能性素材                                |
|                      | 3 被服を管理する   | ① 被服の手入れ     | 2          | 湿式選択(ランドリー)、縮染選択(ドライクリーニング)、家庭選択、商業選択      |
|                      |             | ② 洗剤と漂白剤の働き  | 2          | 海面活性剤、親水基、新油基、漂白                           |
|                      |             | ③ 仕上げ、保管     | 2          | 柔軟仕上げ剤、防虫剤                                 |
|                      |             | ④ 被服を作る      | 1          | 平面構成、和服、立体構成、洋服                            |
|                      | 4 被服を作る     | ① 被服の構成      | 1          | 採寸   |
|                      |             | ② 採寸とサイズ     | 1          |  |
|                      |             | ③ 被服製作の工程    | 2          |  |
|                      |             | ④ 被服製作の基本    | 2          |  |
|                      |             | ⑤ 被服製作例      | 6          |  |
|                      |             | ⑥ 被服製作の発展    | 3          | 衣替え、文様、家紋                                  |
|                      | 5 衣生活の文化と被服 | ① 生活文化と被服    | 1          |  |
|                      |             | ② 繰り返しの知恵    | 1          |  |
|                      |             | ③ 世界の民族衣装    | 1          |  |
|                      | 6 これからの衣生活  | ① 被服の生産と消費   | 1          |  |
|                      |             | ② 被服の再資源化    | 1          |  |
| ③ 環境に配慮した衣生活         |             | 2            | ユニバーサルデザイン |  |
| ■ ホームプロジェクト          |             | 1            |            |  |
| ■ 私のキャリア             |             | 1            | 35         |  |
|                      |             | 35           | 35         |  |

活や消費生活から派生する生活行為とし、社会の食生活に関する問題から、家庭生活の動向を捉える内容となっている。内容量の割合は7%である。これに対して高等学校家庭科の内容は、食生活を営むために必要な知識や技術を身に付け、各々の食生活が社会に与える影響に目を向ける構造となっている。食生活の内容は全体の23%を占めており、家庭科の授業の中で食生活の学習に重きが置かれている。(表3-2、表3-3) 双方に共通しているのは、学びのゴールにこれから

の食生活を展望する内容構成となっているところである。持続可能な社会の構築に向けて、行政の施策と個人の取り組みに目を向け、解決を目指す方向で締めくくっている。

4. 衣食住生活の生活(住生活)の内容について  
「家庭経営学概論」の教科書では、住宅の機能や安全性、品質保証などについて触れ、行政の施策の歴史について触れている。日本の住宅事情についても触

表3-1 「家庭経営学概論」の教科書「衣食住の生活(食生活)」の内容構成

| 「家庭経営学概論」の教科書の内容 |                   | 頁数                | 割合          | 内容に関わる主なキーワード   |             |    |  |
|------------------|-------------------|-------------------|-------------|---|-------------|----|--|
| 11章 食生活を考える      | 1節 健康な食生活         | 1 健康管理と適正栄養の必要性   | 3           | 生活習慣病、朝食、朝食、ダイエット志向、健康食品、炭水化物、食費、タンパク質、無機質、ビタミン<br>切る、煮る、焼く、蒸す、地域、気候風土、調理済み食材<br>欠乏症、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)、朝食欠食、BMI<br>健康食品、食のリスク、科学的知識情報、健康効果<br>節制、精神的満足、家庭教育実践の場、食育基本法、食習慣、欠食、偏食<br>一日摂取許容量ADI、化学物質過敏症、少量摂取主義、化学合成品、天然添加物、残留農薬、輸入食品<br>無農薬、有機栽培、BSE、産地偽装、検査録野菜、健康被害、HACCP、トレーサビリティ・システム<br>カロリーベース総合食料自給率、地元産物、販売促進<br>食品リサイクル法、フードロス防止、循環システム<br>エコ・タッキング、エコ・キッペン、フードマイレージ | 2 適切な調理の必要性 | 2  |  |
|                  |                   | 2節 食の現状と課題        | 1 飽食時代の落とし穴 |   | 2           |    |  |
|                  | 2 フードファディズムと食のリスク | 1                 |             |   |             |    |  |
|                  | 3 食卓の役割と食育        | 1                 |             |   |             |    |  |
|                  | 3節 食生活の安全管理体制     | 1 安全性確保の課題        | 3           |   |             |    |  |
|                  |                   | 2 安全管理体制          | 2           |   |             |    |  |
|                  | 4節 これからの食生活       | 1 食料の自給率          | 1           |   |             |    |  |
|                  |                   | 2 フードロスと消費者の社会的責任 | 1           |   |             |    |  |
|                  |                   | 3 環境配慮型食生活        | 2           |   |             |    |  |
|                  |                   |                   |             |   | 18          | 18 |  |

表3-2 高等学校学習指導要項(平成30年告示)解説 家庭編(家庭総合)「衣食住の生活(食生活)」の内容構成

| 学習内容項目                   | 育成を目指す資質・能力   | 生徒の学習内容に関わる主なキーワード  |
|--------------------------|---|---|
| 6 衣食住の生活<br>(1)食生活の科学と文化 | ア 次のような知識及び技能を身に付けること。<br>(7) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解すること。<br>(4) ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。<br>(9) おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を見付けること。 | 食と人との関り、各ライフステージの食生活の課題、障害を見通した食生活の管理、栄養、食品、調理、食品衛生、日本の食文化の継承・創造、食生活の自立、食品の生産や流通や販売の多様化、輸入食品の増大、食糧自給率の低下、外食や中食への依存、資源やエネルギー、非常時に配慮した食品の備え、調理、保存、フードマイレージ、地産地消、生産から消費、食品の衛生と安全、放射性物質、社会における食品の安全確保の仕組み、食文化、盛り付け、配膳、食器の種類や特徴、和食、食行動、年中行事、地域の食糧向上等と食との関係、嗜好の変化、自己と家族の食事管理、栄養素の種類と機能、食事摂取基準、食品群別摂取量の目安、献立作成、環境維持、持続可能な社会の構築、五感、非加熱調理操作、加熱調理操作、乾燥、塩漬、発酵、くん製、食中毒、食マナー、地域の食材 |

表3-3 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書「衣食住の生活(食生活)」の内容構成

| 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書の内容 |                 | 頁数                | 割合             | 内容に関わる主なキーワード  |   |
|----------------------|-----------------|-------------------|----------------|--|---|
| 生活の自立                | 1 食生活の課題について考える | ① 青年期の食生活の課題      | 1              | 生理的役割、心理的役割、社会的役割、生活リズム<br>朝食欠食、エネルギーバランス(PFCバランス)、内臓脂肪肥満、メタボリックシンドローム、BMI、痩せ(低体重)<br>内食、中食、外食、食の外部化、朝食、朝食<br>栄養、栄養素<br>炭水化物<br>脂質<br>たんぱく質<br>無機質<br>ビタミン<br>その他の食品 | 生活習慣病、朝食、朝食、ダイエット志向、健康食品、炭水化物、食費、タンパク質、無機質、ビタミン<br>切る、煮る、焼く、蒸す、地域、気候風土、調理済み食材<br>欠乏症、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)、朝食欠食、BMI<br>健康食品、食のリスク、科学的知識情報、健康効果<br>節制、精神的満足、家庭教育実践の場、食育基本法、食習慣、欠食、偏食<br>一日摂取許容量ADI、化学物質過敏症、少量摂取主義、化学合成品、天然添加物、残留農薬、輸入食品<br>無農薬、有機栽培、BSE、産地偽装、検査録野菜、健康被害、HACCP、トレーサビリティ・システム<br>カロリーベース総合食料自給率、地元産物、販売促進<br>食品リサイクル法、フードロス防止、循環システム<br>エコ・タッキング、エコ・キッペン、フードマイレージ |
|                      |                 | ② 「食べる」とは         | 1              |  |   |
|                      |                 | ③ 食生活の課題          | 3              |  |   |
|                      |                 | ④ 食生活の変化          | 1              |  |   |
|                      |                 | ⑤ 栄養と栄養素          | 1              |  |   |
|                      |                 | ⑥ 炭水化物            | 3              |  |   |
|                      |                 | ⑦ 脂質              | 2              |  |   |
|                      | 2 食事と栄養・食品      | ⑧ たんぱく質           | 2              |  |   |
|                      |                 | ⑨ 無機質             | 1              |  |   |
|                      |                 | ⑩ ビタミン            | 2              |  |   |
|                      |                 | ⑪ その他の食品          | 1              |  |   |
|                      |                 | 3 食品の選択と安全        | ① 食品の選択        | 1  |   |
|                      |                 |                   | ② 食品の保存と加工     | 1  |   |
|                      |                 |                   | ③ 食品の衛生と安全     | 2  |   |
|                      | 4 生涯の健康を見通した食生活 | ④ 食品の衛生と安全        | 2              |  |   |
|                      |                 | ⑤ 生涯の健康を見通した食生活計画 | 4              |  |   |
|                      |                 | ⑥ 栄養バランスのよい食事     | 4              |  |   |
|                      |                 | ⑦ 食事計画            | 2              |  |   |
|                      |                 | 5 調理の基礎           | ① 調理法の味付けやバランス | 1  |   |
|                      |                 |                   | ② 食事の場面を考えた調理  | 2  |   |
|                      |                 |                   | 調理実習の基本        | 4  |   |
|                      | 6 食生活の文化と知恵     | ③ 調理実習例           | 12             |  |   |
|                      |                 | ① 日本の食文化          | 3              |  |   |
| ② 世界の食文化             |                 | 1                 |                |  |   |
| 7 これからの食生活           | ③ 世界の食文化        | 1                 |                |  |   |
|                      | ④ 食料生産と食料問題     | 1                 |                |  |   |
|                      | ⑤ 食の安全性の確保      | 1                 |                |  |   |
|                      | ⑥ 食をめぐる問題とそれ対策  | 1                 |                |  |   |
|                      | ⑦ 持続可能な食生活を営む力  | 1                 |                |  |   |
|                      | ■ ホームプロジェクト     | 1                 |                |  |   |
|                      | ■ 私のキャリア        | 1                 |                |  |   |
|                      |                 | 57                | 57             |  |   |

れ、高齢者の住生活にも目を向けている。また、災害に対する住まいのあり方は勿論のこと、環境と共生する住まい方、多様な人々が共生する住まい方などを創造する時代に辿り着いているとし、共に住まうことの必要性を強調している。(表4-1)

高等学校の家庭科の教科書では、住居の機能や住居の計画、住生活の文化、安全で健康的な住居の計画について学ぶ構成となっている。また、社会環境と住居と結び付け、様々な住まい方を紹介し、持続可能な住

生活の必要性を強調している。家庭経営学では、住まいを住居として捉え、安全性や快適性の物理的条件を考察し、社会的要請に応えることができる住生活に目を向けている。高等学校家庭科では、持続可能な社会の構築につながる住生活に多くのページを割いており、個人の住まいと住まいで構成される地域や社会とのつながりのあり方を考えることができる構成となっている。シェアハウやコレクティブハウスやコーポラティブハウス、環境共生住宅など、具体的な住まい方

表4-1 「家庭経営学概論」の教科書「衣食住の生活(住生活)」の内容構成

| 「家庭経営学概論」の教科書の内容 |                 | 頁数           | 合計 | 内容に関わる主なキーワード   |    |
|------------------|-----------------|--------------|----|---|----|
| 12章 住生活を考える      | 1節 安全な住まい       | 1 住まいの機能と安全性 | 3  | 住意識、健康性、能率性、快適性、自然災害列島、多発地帯、常震地帯、東日本大震災、防災情報提供センターハザードマップ     |    |
|                  |                 | 2 住宅の品質確保    | 2  | 障壁(バリア)、日照時間、自然採光、人工照明、アレルギー                                  |    |
|                  | 2節 健康な住まいとエコライフ | 1 健康な住まいの条件  | 3  | 室内環境、自然環境、社会環境、自然採光、人工照明、相対湿度、通風、空気汚染物質、シックハウス、直接音、反射音、許容騒音   |    |
|                  |                 | 2 住まいのエコライフ  | 2  | 地球環境問題、環境共生、サステナブル、ヴァナクラ、自然呼吸、省エネルギー、太陽光発電、エコライフ、パッシブ型、アクティブ型 |    |
|                  | 3節 日本住宅事情       | 1 住宅事情の概況    | 3  | 住宅所有関係、都市再生機構、誘導居住水準、耐震診断                                     |    |
|                  |                 | 2 高齢者の住宅事情   | 2  | 居住水準、介護保険事業状況報告、福祉用具・住宅改修サービス                                 |    |
|                  | 4節 これからの住まい     | 1 住居は人権      | 2  | 住居は人権、住生活基本法、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律                     |    |
|                  |                 | 2 共に住む       | 2  | 19 コーポラティブハウス、コレクティブハウス、シルバークラウド、ケアハウス、認知症老人グループホーム           |    |
|                  |                 |              |    | 19  | 19 |

表4-2 高等学校学習指導要項(平成30年告示)解説 家庭編(家庭総合)「衣食住の生活(住生活)」の内容構成

| 学習内容項目                   | 育成を目指す資質・能力   | 生徒の学習内容に関わる主なキーワード   |
|--------------------------|---|--|
| B 衣食住の生活<br>(3)住生活の科学と文化 | ア 次のような知識及び技能を身に付けること。<br>(7) 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人の関わりについて理解を深めること。<br>(4) ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けること。<br>(9) 家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できること。 | 日本の住宅事情、住宅政策、機構・県土、住まい方、歴史的発展、和室、日本建築・家屋、住空間、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、住宅取得、住宅ローン、住要求、住宅の評価・選択、図面、間取り図、防災、地震、風水害、積雪、土砂崩れ、自然災害、建築、家庭内事故、耐震性、耐震要素、耐震金網、転倒防止、避難、日照、採光、換気、遮音、温熱、化学物質、室内汚染、カビ、ダニ、結露、耐久性、省エネルギー、地球環境、リフォーム、リノベーション、ハザードマップ、フラワーアレンジメント、まちづくり |

表4-3 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書「衣食住の生活(住生活)」の内容構成

| 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書の内容 |                | 頁数                   | 合計 | 内容に関わる主なキーワード   |
|----------------------|----------------|----------------------|----|---|
| 生活の自立                | 1 住生活の変遷と住居の機能 | ① 住居の機能と変化           | 2  | 生活行為、個人的行為、生理的行為、共同の行為、サービスの行為、移動空間、収納空間、間取り、食糧分庫、公私分庫、性別就業分庫、nDK、nLDK  |
|                      |                | ② 平面図を理解する           | 2  | ゾーニング、動線、平面図  |
|                      |                | ③ 住居の計画              | 2  | 住要求、減築、住宅取得費、住宅ローン、メニュー方式、フリープラン方式  |
|                      |                | ④ 誰もが住みやすい住居とまち      | 2  | 動作寸法、ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリー新法  |
|                      | 2 安全で快適な住居の計画  | ① 住居の防災              | 2  | 自然災害、人為災害、被災者生活再建支援法、二次災害、ハザードマップ、置き家具、壁面収納、造り付け収納、空き巣、一酸化炭素中毒、住居内の事故   |
|                      |                | ② 健康な住生活             | 2  | 建築基準法、建ぺい率、容積率、有効採光面積、寒暖差、気密性、結露、かび、ダニ、自然換気、機械換気、シックハウス症候群、煙突効果、生活騒音  |
|                      | 3 住生活の文化と知恵    | ① 気候風土と住居            | 2  | 気候風土、伝統的な住居、定住型、移動型、生業  |
|                      |                | ② 伝統的な日本の住居          | 1  | 規準(モジュール)、イグサ、調湿性、しつらい、段津づくり、簾むしろ、花蒔染、住文化を伝承  |
|                      | 4 これからの住生活     | ① 日本の住宅政策            | 1  | 住居政策、居住面積水準、住生活基本法、住生活基本計画  |
|                      |                | ② 持続可能な住生活           | 3  | 建築廃棄物、スカルトン・インフィル方式、建設サイクル、再資源化、ストック型社会、リノベーション、コンバージョン、リフォーム、環境共生住宅、エネルギー自給型住宅(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)、ヒートアイランド現象、屋上緑化、壁面緑化、緑比率、ビオトープ |
|                      |                | ③ 社会環境と住居            | 2  | シェアハウス、グループ・リビング、コレクティブハウス、コーポラティブハウス、住環境、安全性、保潔性、利便性、快適性、持続可能性   |
|                      |                | ■ ホームプロジェクト          | 1  |   |
|                      |                | ■ 私のキャリア             | 1  |   |
|                      |                | 衣食住とライフステージの関わりを考えよう | 2  | 28  |
|                      |                | 28                   | 28 |   |



を示し、これからの新しい住生活の可能性を探る内容構成となっている。(表4-2、表4-3)

### 5. 消費生活・環境の内容について

消費生活の内容量は「家庭経営学概論」の教科書では、28%の割合である。家計と生活、金銭管理、ファイナンシャルプランニング、カード社会、消費者問題など、家庭経済に関する内容を幅広く取り上げ、その現状と問題点をあげている。電子マネーやキャッシュ

レス化など、利便性と危険性の二面性のある社会の仕組みを理解する内容構成となっている。金融商品についても詳しく触れ、生涯にわたる家計の管理を見通すことの必要性を強調している。(表5-1)

高等学校家庭科の教科書では、内容量は、全体の18%を占めている。商品やサービスの購入における契約のルールや支払い方法、悪質商法などについて触れている。また、家計をマネジメントする視点から、収入と支出のバランス、資産運用などについても触れ生

表5-1 「家庭経営学概論」の教科書「消費生活・環境」の内容構成

| 「家庭経営学概論」の教科書の内容    |                       |                      | 頁数                 | 合計 | 内容に関わる主なキーワード                                       |                              |
|---------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|----|---|------------------------------|
| 6章 生活と金銭管理          | 1節 家計・備計              | 1 生活と家計・備計           | 1                  | 1  | 消費経済社会、国民経済、格差社会、生活水準、バラサイト                         |                              |
|                     |                       | 2 家計調査からみた家計の実態      | 5                  | 5  | 受取、支払い、非消費支出、可処分所得、消費性向、基礎的支出、選択的支出                 |                              |
|                     |                       | 3 子ども手当と公立高等学校授業料無償化 | 2                  | 2  | 公立高等学校授業料無償化、高等学校等就学支援金制度                           |                              |
|                     | 2節 生活費に影響を与える要因       | 4 雇用の流動化と収入格差        | 2                  | 2  | 安定雇用、終身雇用、年功序列型賃金、雇用形態、正規雇用者、非正規雇用者                 |                              |
|                     |                       | 1 物価                 | 2                  | 2  | 商品、サービス、消費者物価指数、国民年金、厚生年金                           |                              |
|                     |                       | 2 思慮としての省エネルギー       | 2                  | 2  | グリーンコンシューマ、エコラベル商品、環境家計簿                            |                              |
|                     | 3節 金銭管理の要点            | 1 家計簿                | 2                  | 2  | キャッシュレス家計、プラスチックマネー、バランスシート                         |                              |
|                     |                       | 2 消費欲求(必要と欲望)        | 1                  | 17 | 必要(ニーズ)、欲望(ウォンツ)、人並み志向                              |                              |
|                     | 7章 ファイナンシャルプランニング     | 1節 ファイナンシャルプランニング    | 1 ファイナンシャルプランニングとは | 1  | 1   | ライフプラン、ライフデザイン、生活設計、貯蓄、負債、保険 |
|                     |                       |                      | 2 国民経済と家計貯蓄        | 1  | 1   | 国民経済の主体、預貯金、生命保険、株式、有価証券     |
| 3 家計におけるフローとストックの管理 |                       |                      | 1                  | 1  | ローン、純財産高、フロー(流れ)、ストック(蓄え)                           |                              |
| 2節 貯蓄と負債            |                       | 1 貯蓄の目的              | 1                  | 1  | 老後生活資金、病気・災害への備え、教育資金                               |                              |
|                     |                       | 2 金融資産の保有額           | 2                  | 2  | 金融資産、銀行、債券、株式、投資信託、有価証券                             |                              |
|                     |                       | 3 負債の現状              | 1                  | 1  | 金融広報中央委員会、金融行動、借入金住宅ローン                             |                              |
| 3節 保険               |                       | 4 借入の目的              | 3                  | 3  | 変動金利、固定金利、借入消費財、教育資金、結婚資金                           |                              |
|                     |                       | 1 保険の目的と役割           | 1                  | 1  | リスクマネジメント、保険、相互扶助、生命保険、損害保険                         |                              |
|                     |                       | 2 生命保険               | 1                  | 1  | 主契約、特約、保険料、保険会社、資産運用、保証                             |                              |
|                     |                       | 3 損害保険               | 1                  | 1  | 車の保険、住まいの保険、第一・第二・第三分野の保険                           |                              |
| 4節 金融商品の選択          |                       | 1 金融商品選択のポイント        | 2                  | 2  | 安全性、流動性、収益性、ハイリスク・ハイリターン                            |                              |
|                     |                       | 2 自己責任時代の環境整備        | 3                  | 18 | セーフティネット(安全網)、預金保険制度、保険契約者保護機構、ディスクロージャー            |                              |
| 8章 カード社会の金銭管理       |                       | 1節 カード社会とは           | 1 カード社会            | 1  | 1   | クレジットカード、電子マネー、スマホ決済、リスキ     |
|                     | 2 消費者信用とは             |                      | 2                  | 2  | クレジットカード、住宅ローン、資産形成、二重契約、三重契約                       |                              |
|                     | 3 クレジットの返済方法          |                      | 2                  | 2  | 一括払い、分割払い、毎月定額払い、遅延損害金                              |                              |
|                     | 2節 カードの種類             | 1 カードの歴史             | 1                  | 1  | ダイナースクラブ(アメリカ)、ステイタスシンボル、月賦                         |                              |
|                     |                       | 2 電子マネー              | 2                  | 2  | ネットワーク、ICカード、私製貨幣(代用貨幣)、プリペイド型、ポストペイ型、サーバー型         |                              |
|                     | 3節 カード社会の問題点          | 1 多重債務者の発生           | 2                  | 2  | 多重多額債務、自己破産申告、サラ金二重課金、返済能力                          |                              |
|                     |                       | 2 借金の金利              | 2                  | 2  | 多重債務問題、改正貸金業法、金利規制、保証料、グレーゾーン金利                     |                              |
|                     | 4節 カード社会の金銭管理         | 1 レシートの管理            | 1                  | 1  | 控え、レシート、家計簿、スマートフォン機能、一覧性                           |                              |
|                     |                       | 2 クレジットカードの管理        | 1                  | 1  | カード事故、スリーピングカード、カード番号、暗証番号                          |                              |
|                     | 3 多重債務に陥った場合の対応       | 2                    | 16                 | 2  | 公的相談窓口、国民生活センター、消費者生活センター、日本司法支援センター(法テラス)          |                              |
| 9章 消費者問題            | 1節 多発する消費者問題          | 1 構造の消費者問題の発生        | 1                  | 1  | 消費者被害、金銭的・身体的・精神的被害、被害救済                            |                              |
|                     |                       | 2 消費者問題の愛護と内容        | 2                  | 2  | 森永班味ミルク事件、プリティカ商法、マルチ商法、悪質商法                        |                              |
|                     |                       | 2 消費者相談の現状           | 2                  | 2  | PIO=NET(パイオネット)、全国消費生活情報ネットワークシステム                  |                              |
|                     | 3節 消費者行政と消費者法         | 1 消費者の権利             | 2                  | 2  | 経済的サービス化、運輸・通店サービス、サラ金、フリーローン、訪問・通信販売、マルチ取引、電話勧誘販売  |                              |
|                     |                       | 2 消費者法と被害救済機関        | 2                  | 2  | ネット相談、デジタルコンテンツ、悪質商法、被害者意識                          |                              |
|                     |                       | 3 消費者の権利と責任の自覚       | 3                  | 3  | ケネディの4つの権利、消費者保護基本法、消費者基本法                          |                              |
|                     | 4節 消費者市民とは            | 1 消費者の権利と責任の自覚       | 3                  | 3  | 情報弱者、被害救済、消費者安全法、有償物買戻法(PL法)、消費者契約法、特定商品取引法、金融商品販売法 |                              |
|                     |                       | 2 経済的投票権による消費者の意思表示  | 1                  | 1  | 消費者の8つの権利、消費者の5つの責任、持続可能な消費                         |                              |
|                     | 3 持続可能な消費とグリーン・コンシューマ | 1                    | 18                 | 1  | 環境問題、消費者問題、消費者行動、グリーン・コンシューマ運動、5R                   |                              |
|                     |                       |                      |                    | 69 | 69  |                              |

表5-2 高等学校学習指導要項(平成30年告示)解説 家庭編(家庭総合)「消費生活・閑居」の内容構成

|                   | 育成を目指す資質・能力        | 生徒の学習内容に関わる主なキーワード  |  |
|-------------------|--------------------|---|--|
| C<br>持続可能な消費生活・環境 | (1)生活における経済的計画     | <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めること。</p> <p>(4) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできること。</p>  | <p>イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や株式、債券、投資信託、金融商品、資産形成、短期的・長期的な経済的管理、計画、リスク、仮想通貨、家計管理、</p> |
|                   | (2)消費行動と意思決定       | <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできること。</p> <p>(4) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解を深めるとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。</p> | <p>イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫すること。</p>                                    |
|                   | (3)持続可能なライフスタイルと環境 | <p>ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めること。</p>  | <p>イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫すること。</p>                                |

涯を見通した経済生活を考えることができるようになる内容構成となっている。また、成人年齢引き下げをより意識した内容構成にもなっている。(表5-2、表5-3)

環境の内容においては、双方とも、持続可能な社会に向けて、大量生産大量消費の限界に達している現代の生活から脱却し、持続可能な社会を協力して生み出すことの必要性を強調している。また、生活が環境に及ぼすことについては、衣食住の生活の学習において具体的な生活場面を見つめ、環境問題を深刻なものとして捉え、各自の生活を見つめ直す学習と結び付く構成となっている。

### 考 察

「家庭経営学概論」の教科書における家庭経営学と高等学校家庭科教科書の内容量の割合を図2に示す。双方の構成はかなり異なる。

まず、家庭経営学においては、家族・家庭生活の割合が全体50%を占め、次に消費生活・環境の割合が28%を占めており、他の内容はどれも10%に届かない状態にあるのが特徴である。(図2)

このことから、家庭経営学では、家族・家庭生活を

内容構成量の比較

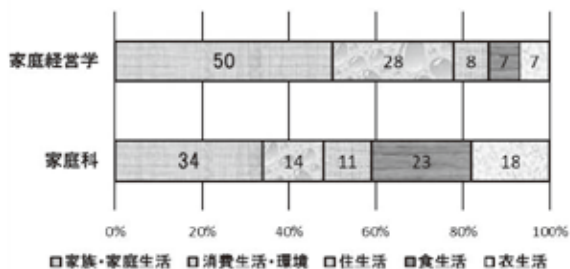


図2 家庭経営学と家庭科の内容割合の比較

軸として、消費生活・環境はそれに附随するものとして捉え、その生活の一面に衣生活、食生活、住生活があるという捉え方であり、社会的現象、社会的問題から個々の生活の傾向とその背景にアプローチする構造となっている<sup>7) 8) 9) 10)</sup>。(図3)

これに対して高等学校の家庭科では、家族・家庭生活の内容が34%、その次が食生活の23%、衣生活の18%である。家族・家庭生活に最も多くのページを割くところは共通しているが、高等学校の家庭科では、次は具体的な生活を学ぶということで、食生活や衣生活にアプローチする構成となっている。消費生活・環境は14%、住生活は11%である。(図2)

表5-3 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書「消費生活・環境」の内容構成

| 高等学校家庭科(家庭総合)の教科書の内容 |                 | 頁数              | 合計  | 内容に関わる主なキーワード   |  |
|----------------------|-----------------|-----------------|---|---|--|
| 第9章<br>生活の自立         | 1 情報の収集・比較と意思決定 | ① 消費生活と意思決定     | 2   | 消費生活、消費者、悪質商法、消費者ホットライン(188)  |  |
|                      |                 | ② よりよい意思決定のために  | 2   | エシカル消費、生活情報、情報リテラシー、個人情報、個人情報保護法、不当表示、景品表示法   |  |
|                      | 2 購入・支払いのルールと方法 | ① 購入と契約         | 2   | 契約、当事者の合意、申し込み、承諾、債券、債務、損害賠償、強制執行、契約書、店舗販売、無店舗販売、電子商取引、個人間取引(C to C)  |  |
|                      |                 | ② 多様化する支払い方法    | 2   | キャッシュレス決済、二次元コード決済、クレジットカード、信用、販売信用、消費者金融、消費者信用、リボルビング払い、三者間契約、担保、フィッシング、スキミング                                    |  |
|                      | 3 消費者の権利と責任     | ① 消費者の権利を生かす    | 2   | 行為能力、未成年取消、クーリング・オフ、特約継続的役務提供、連鎖販売取引、中途解約、取消、無効、製造物責任法(PL法)、リコール制度、消費生活センター、国民生活センター、消費者団体訴訟制度、差止請求、被害回復、公正通報者保護法 |  |
|                      |                 | ② 社会とつながる消費者    | 2   | 消費者問題、消費者の4つの権利、国際消費者機構(CI)、消費者の8つの権利と5つの責任、奉仕者基本法、消費者庁、消費者市民社会、消費者教育推進法  |  |
| 4 生活の経済生活を見通す        | ① 家計の構造を理解する    | 2               | 稼ぐ力、お金を適切に管理する力、ハローワーク、ジョブカフェ、ジョブ・カード制度、雇用者、自営業者、正規雇用、非正規雇用、アルバイト派遣社員、契約社員、個人事業主、個人経営者、フリーランス、教育訓練給付制度、女性の管理職登用                 |   |  |
|                      |                 | 3               | 経済行動、嘉徳k、収入、実収入、実収入以外の変取、支出、家支出、実支出以外の支払、消費支出、非消費支出、給与明細、源泉徴収票、勤怠、支給、控除、可処分所得、貯蓄、エンゲル係数   |   |  |
|                      | ② 家計資産のマネジメント   | 3               | 教区資金、住宅資金、老後資金、運用、家計資産のマネジメント、定期預金、財形貯蓄、安全性、収益性、流動性、普通預金、元本割れ、債券、株式、投資信託、金融資産、実物資産、保険、公的保険、民間保険、奨学金、多重債務、任意整理、特定長学、個人再生手続き、自己破産 |   |  |
| 6 これからの経済生活          |                 | 2               | 22  | 為替レート、買い物難民、国内総生産(GDP)、ESG投資、サーキュラー、エコノミー   |  |
| 第10章<br>持続可能な生活を営む   | 1 持続可能な社会を目指して  | ① 大量消費社会の限界     | 2   |   |  |
|                      |                 | ② よりよい地球環境に向けて  | 2   | 京都議定書、温室効果ガス、パリ協定、持続可能な開発目標(SDGs)、循環型社会形成推進基本法  |  |
|                      | 2 一人一人の力で社会を動かす | ① 毎日の生活を持続可能にする | 1   | Think Globally, Act Locally、資源利用を削減すること、社会的活動を実施し支援すること   |  |
|                      |                 | ② 資源利用の削減       | 1   | リデュース、リユース、リサイクル、低炭素社会、再生可能エネルギー、創エネルギー   |  |
|                      | ③ エシカル消費の実践     | 1               | フェアトレード、環境ラベル   |   |  |
|                      | ④ 社会的活動の実践と支援   | 1               | 企業の差や目的責任(CRS)、ライフサイクルアセスメント、国際標準化機構(ISO)、ISO14001、共通価値の創造(CSV)   |   |  |
|                      | ⑤ 消費行動で社会を動かす   | 1               | 社会参加  |   |  |
| ■ ホームプロジェクト          | 1               | 11              |   |   |  |
| ■ 私のキャリア             | 1               | 11              |   |   |  |
|                      |                 | 33              | 33  |   |  |

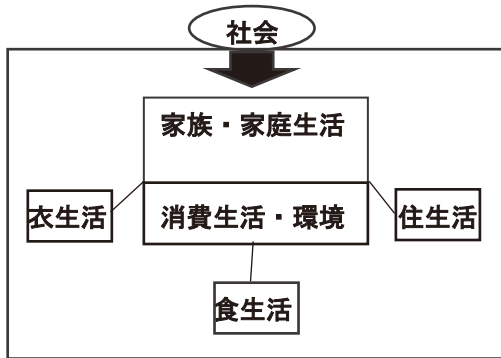


図3 家庭経営学の内容構成

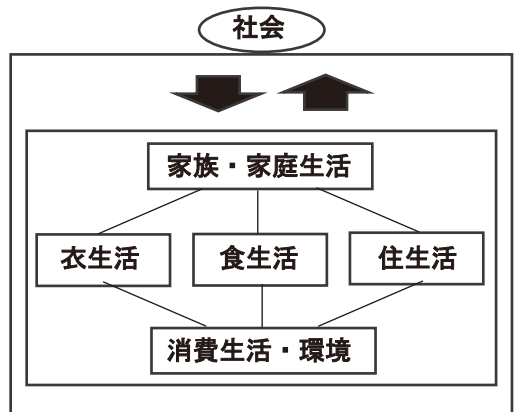


図5 家庭科を視野に入れた「家庭経営学概論」の内容構成図

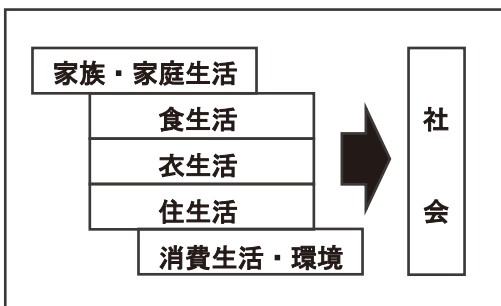


図4 家庭科の内容構成図

このことから、高等学校家庭科の内容は、各学習内容の一つずつ取り上げ、各々の生活が社会にどのような影響を与えるのかを見つめていく構成となっている。5つの内容量の差も少ない。これを整理してまとめたものを図4に示す。

双方の相違点として、社会から家庭を見るのか家庭から社会を見るのかという立ち位置の違いがある。矢印の向きでその関係を表した。

#### まとめ

家庭経営学と家庭科の内容構成の分析の考察により共通点、相違点を、家庭科教員のための「家庭経営学概論」の内容構成図を作成した。(図5)

家族・家庭生活、消費生活・環境をベースに衣食住の生活を捉え、家庭から社会へ、社会から家庭へと双方向の視点から、そこに存在する問題を課題として捉えることが必要であると考えます。

高等学校家庭科の教科書には、5つの学習内容の最後のまとめの部分にホームプロジェクトに取り組むための問いの投げかけが成されているが、課題を解決する学習を目指して設定されているものである。「家庭経営学概論」の授業においても、この構成を生かすことが、家庭科の授業づくりにつながる有効な手立てであると考えます。

今回の指導要領の改訂(2017~2019年文部科学省告示)で、新たな視点として各教科の学習において「見方・考え方」をはたらかせるという文言が盛り込まれた。家庭科の見方・考え方としては、「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」が示されている。これらが、生活における課題解決に迫る視点であるので、この視点を「家庭経営学概論」授業にも取り入れ、生活の課題の解決に迫ることができる授業構築を図りたい。

#### 参考文献

- 1) 原田一(1970)『生活経営学』の範囲と内容について 家政学原論研究VI 家政学会誌 Vol.21 No7 p 459-p466
- 2) 赤星礼子(2022)『生活経営学』九州大学出版会
- 3) 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 家庭編』教育図書、p1-p18、p46-p93
- 4) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説

技術・家庭科編』教育図書

- 5) 文部科学省検定教科書(2023年) 高等学校家庭科『家庭総合』東京書籍
- 6) 文部科学省検定教科書(2022年) 中学校技術・家庭科『技術・家庭 家庭分野』開隆堂
- 7) 松岡明子・武田美知・藤井千賀・辻定禎子(2006)『生活経営 - Well-Beingをめざす自助努力』建帛社
- 8) 片山倫子・渋川祥子・沖田富美子(2012)『人と生活』「生活する力を育てる」ための研究会
- 9) 堀田剛吉・渡辺廣二・遠藤マツエ(2003)『未来志向の生活経営』家政教育社
- 10) 藤原千賀・萩原なつ子・重川純子・三善勝代・木脇奈智子・工藤由紀子(1996)『生活経営論』同文書院